２０２６ 年度　独立行政法人国立病院機構東京医療センター （病床数　640）【２年次】

受入人数	【2年次】 １名

常勤・非常勤	研修手当						勤務時間	休暇				当直/月	宿舎	社会保険・労働保険等
	基本手当		賞与		時間外	休日		有給		夏季	年末年始			
	1年次	2年次	1年次	2年次				1年次	2年次					
常勤		239,100円		621,600円	有	有	（記入例） 平日8:30～17:00 土曜日8:30～12:30		23	有	有	3回程度	有	厚生労働省第二共済組合、厚生年金、雇用保険、労働者災害補償保険

○ 研修診療科（必修科目）について

科目	研修内容（手技・症例数・指導医数等）
地域研修（在宅を含む）	原則的に4週間とし、全研修期間中3週間を一般外来研修に充てています。 当院の協力施設にて実施します。協力施設:武蔵国分寺公園クリニック、日扇会第一病院、目黒病院、本田病院、おうちのドクター、千歳台はなクリニック、古畑病院、石橋医院、松原アーバンクリニック、恵泉クリニック、（2025年4月現在）
一般外来	全研修期間を通じて、一般外来研修を4週間行い、その内訳を以下としています。 (ア) 3週間:地域医療研修期間中の並行研修とし地域医療研修施設で行う。 (イ) 1週間:東京医療センター総合内科外来、および小児科外来で行う。
外科	上級医とチームを組み、入院患者の診療および救急診療を行い、チームの一員として手術に参加し、周術期患者管理を行います。また 上級医の指導のもとに診療録の作成を行います。各カンファレンスにおいて、担当患者のプレゼンテーションも行います。臨床上の問題点解決のために文献検索から文献抄読会で発表や、院内、院外の症例検討会、学会などで症例報告などの発表を行います。
小児科	研修医は入院患者の受持医として、また一般外来診療、救急外来診療を通じて、指導医とともに診療にあたり、適切な指導を行うために、以下にあげた項目を実施します。 1）指導医による入院患者の毎日の回診及び重要な症例についてのカンファレンス　2）指導医による外来患者についてのカンファレンス　3）指導医による診療録、退院サマリーやその他の医療記録のチェック　4）小児
産婦人科	産科：　1）妊娠の診断と正常妊婦の外来管理、分娩管理⇒5例以上を経験し、正常分娩経過についてはパルトグラム作成や、分娩監視装置による検査の評価も含めたレポートを1例以上作成する。　2）帝王切開、流早産の管理に受け持ち医として参加する。　3）産科出血に対する救急処置　症例があれば参加する。 婦人科：　1）婦人科良性腫瘍の診断ならびに治療計画⇒子宮および卵巣の良性疾患をそれぞれ1例以上経
精神科	1）リエゾン・救急の場面での陪席、予診、担当　　2）一般病棟での精神科主科の入院患者の担当　3)精神科外来での初診患者の陪席 4）リエゾン症例カンファレンスへの参加と発表　6）抄読会、勉強会への参加と発表　7）クルズスでの講義
麻酔科	研修達成度に応じた難易度の手術患者を受け持ち、指導医のもとで周術期管理を担当します。 術前カンファレンスを行い、適切な麻酔計画を立て、指導医と共に麻酔管理(全身麻酔・硬膜外麻酔・脊椎麻酔)を行います。また麻酔管理に必要な薬理・生理については適宜講義・抄読会を行います。

○ 研修のアピール

東京医療センターは渋谷から田園都市線で3駅の駒澤大学駅が最寄りであり、緑豊かな環境に恵まれた病院です。臨床研修の歴史は古く、熱意あふれるたくさんの指導医がいます。後輩への指導を惜しみなく行うことが当たり前の文化の中で、相手の気持ちを理解することができる成熟した臨床医の育成に努めています。プリマリ・ケアに必要な基本的診察能力を習得できることはもちろん、毎日のように開催される勉強会や講習会を通じて多くの知識と技術を身につけることができます。公私ともに充実した生活を送る中で個々の目指す医師像に向かって羽ばたくみなさんを、全力で支援するプログラムが揃っています。

○ 選択科目について（選択できる診療科）

総合内科	血液内科	救急救命センター	整形外科	
循環器科	リウマチ膠原病内科	救急外来	麻酔科	
消化器内科	一般・消化器外科	小児科	泌尿器科	
呼吸器内科・アレルギー	心臓血管外科	産婦人科		
脳神経内科	脳神経外科	精神科		
腎臓内科	呼吸器外科	放射線科		
備考				

※地域研修の施設は、記載されている協力型病院の施設に限られます。

研修実施責任者　教育研修部長　上野博則

※問い合わせ先

担当部署・担当者名：職員係　佐藤謙

住所：　東京都目黒区東が丘2－5－1

TEL：　03-3411-0111

E-mail：　sato.ken.ri@mail.hosp.go.jp